

2022年度のアクションプランに対する「取組状況」 及び定量指標（KPI）の公表

2023年6月

 **SBI 岡三アセットマネジメント**

 **岡三アセットマネジメント**

2023年7月1日付で会社ロゴを
変更します。

2022年度のアクシヨンプランに対する「取組状況」

● お客様の最善の利益の追求（原則2及び（注））

◆アクティブ・ファンドのパフォーマンス向上を目指します。

⇒ 国内株自社運用ファンドについて、R&Iシャープレシオ（1年間）上位1/3を占めるファンドは45.5%でした。

⇒（同）TOPIX配当込のリターン（1年間）を超過したファンドは27.3%でした。

◆評価機関からの高評価を目指します。

⇒ 評価機関からの高評価（4つ星以上、短期評価除く）を受けたファンドは、86本中53本（61.6%）でした。

◆運用力に対する信頼感の向上を目指します。

⇒ アワードを受賞したファンド数は、以下の3本となりました。

・リッパー最優秀賞2本：日本好配当リバランスオープン（3年）、ワールド・リート・セレクション（欧州）（3年）及び（5年）

・R & I 優秀ファンド賞1本：日本ニューテクノロジー・オープン

◆エンゲージメント活動を推進いたします。

⇒ 重点対話企業に対するエンゲージメント活動の進捗状況を「伝達」「共有」「計画策定」「実行」「達成」の5段階管理としました。

⇒ HPの開示資料において、グラフ活用等レイアウト変更を行い、「見やすさ」「分かりやすさ」の向上を図りました。

◆トレーディングコストの削減に努めます。

⇒ アルゴリズム発注の増加及び外国株式の大口取引折衝により、取引にかかる手数料を削減しました。

2022年度のアクションプランに対する「取組状況」

● 利益相反の適切な管理 (原則3及び(注))

◆利益相反の可能性について正確に把握し、適切に管理いたします。

- ⇒ 「利益相反管理方針」及び「利益相反管理規程」を設け、項目毎に具体的な対応方針を定めています。
- ⇒ 毎月開催される売買分析会議において、各項目の管理状況の報告を行う体制としています。
- ⇒ 法例諸規則等に抵触した場合は、業務審査委員会において、対応を審議することとしています。
- ⇒ 年に一度、全役職員を対象とした社内研修を行い、社内の啓蒙に努めています。

● 手数料等の明確化 (原則4)

◆手数料等につき、より良く理解して頂けるよう開示してまいります。

- ⇒ 交付目論見書にお客様にご負担いただく費用を分かりやすく記載し、運用報告書には参考情報として総経費率を記載しました。
- ⇒ 運用管理費用については商品開発委員会にて決定し、「プロダクト・ガバナンス委員会」において、その適切性について検証を行いました。

2022年度のアクションプランに対する「取組状況」

● 重要な情報の分かりやすい提供（原則5及び（注1,3,4,5））

◆資産運用商品等の内容につき、「重要情報シート」等を通じて、分かりやすく提供できるよう努めます。

⇒ 投資商品を選択する際に参考として頂くため、販売会社へ「重要情報シート」に記載する情報提供を行いました。

◆お客さまにご留意いただきたい事項については、より丁寧な開示に努めます。

⇒ 販売用資料において図解や写真等を多用し、分かりやすい表現を入れるなどの改善を実施しました。

● お客さまにふさわしいサービスの提供（原則6及び（注3,5））

◆幅広いお客さまのニーズに応える資産運用商品等の開発・提供に努めます。

⇒ お客様のニーズを把握した上で、グローバル株に投資するファンド、地域貢献を行う寄附付ファンド、バランス型ファンド等の設定を行いました。

◆適切かつ丁寧なアフターフォロー及びお客さまの金融リテラシー向上に資する情報提供に努めます。

⇒ 各種ファンドレポートの配信によるアフターフォローやマーケットレポートの定期配信を行いました。

⇒ 販売会社において投資の知識向上のための研修等を実施しました。

◆お客さまに提供される「重要情報シート」における適切な情報の開示を行います。

⇒ 投資商品を選択する際に参考として頂くため、販売会社へ「重要情報シート」に記載する情報提供を行いました。

2022年度のアクションプランに対する「取組状況」

- 役職員に対する適切な動機づけの枠組み (原則7及び(注))
 - ◆ 企業理念「お客さまの豊かな人生を創る」のもと、本「アクションプラン」を実行します。
 - ⇒ 毎年度アクションプランを策定し、その内容と取組状況についてHPにて公開する一方、従業員に対しては、社内イントラへの掲載・社内会議での説明を行うことにより周知を図りました。
 - ⇒ 「お客さま本位の業務運営に関する委員会」において、運用力強化、商品組成等顧客の最善の利益を追求するための行動、利益相反の適正な管理等の検証を行いました。
 - ◆ プロダクト・ガバナンスの体制強化を図ります。
 - ⇒ 2022年10月に「プロダクト・ガバナンス委員会」を設置、新ファンドの設定内容及び信託報酬の適切性等の検証を行うと共に、既存ファンドのパフォーマンス・モニタリングを実施しました。

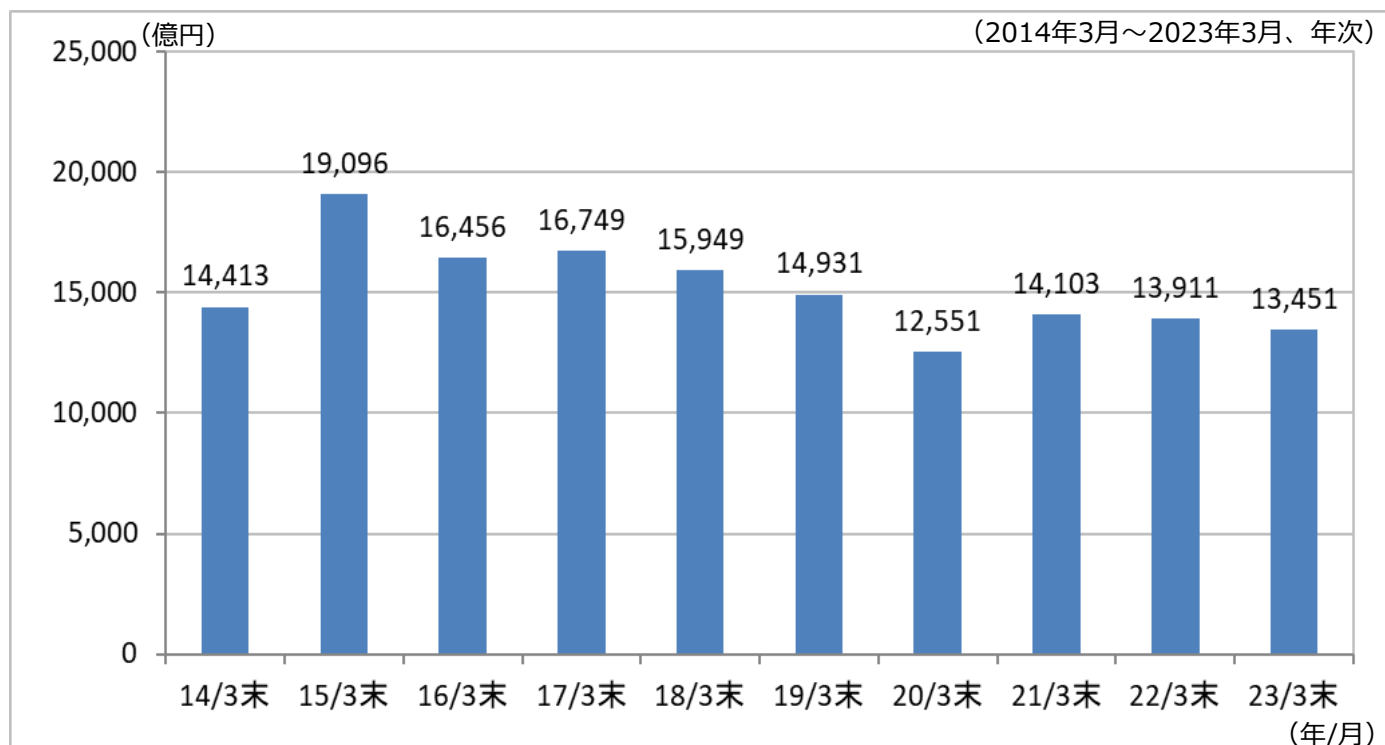
定量指標（KPI）の公表

- 2022年度の「お客さま本位の業務運営を実現するための方針」への取組みの成果や進捗状況につき、以下の定量指標（KPI）を公表いたします。
 - ①運用資産額（純資産総額）
 - ②お客さま等からの評価
 - ③評価機関より4つ星以上を獲得したファンド数及び割合
 - ④地域応援ファンド・社会貢献ファンドの本数
- 当社は、これからも、お客さまにご満足いただける資産運用商品等のご提供ができるよう、邁進努力いたします。

①運用資産額(純資産総額)

当社の金融商品が、お客さまの中長期的な資産形成のお役に立っているかどうかを示す指標として、運用資産額（純資産総額）の推移を公表いたします。

投資信託の運用資産額

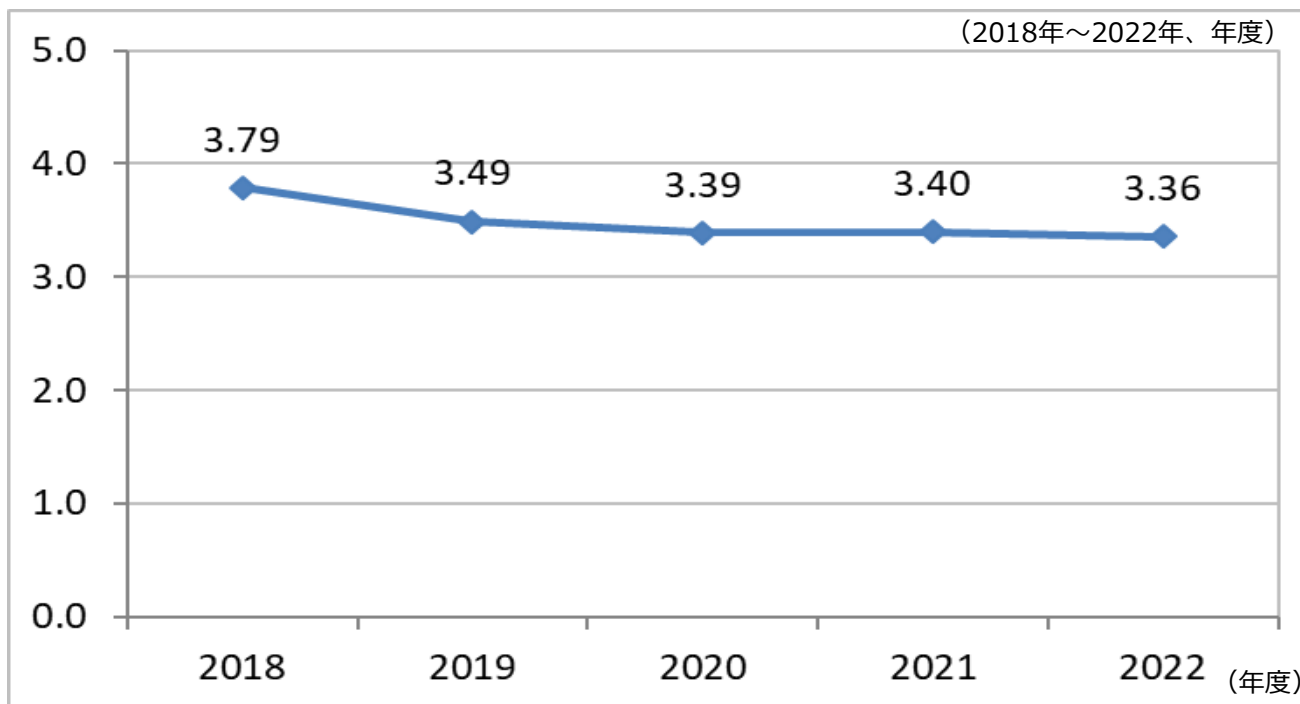


②お客さま等からの評価

当社では、運用会社としての評価を客観的に把握することを目的として、外部評価機関による客観的な評価結果を重要な指標と考えております。

格付投資情報センター(R&I)が毎年発表している「投信会社満足度調査(総合満足度)」を公表いたします。

R&I「投信会社満足度調査(総合満足度)」



※投信会社満足度調査(総合満足度)：投資信託の販売会社に対するアンケートに基づき集計された結果で(5点満点で評価)、格付投資情報センター(R&I)「ファンド情報」282号、314号、339号、364号、390号より岡三アセットマネジメントが作成。

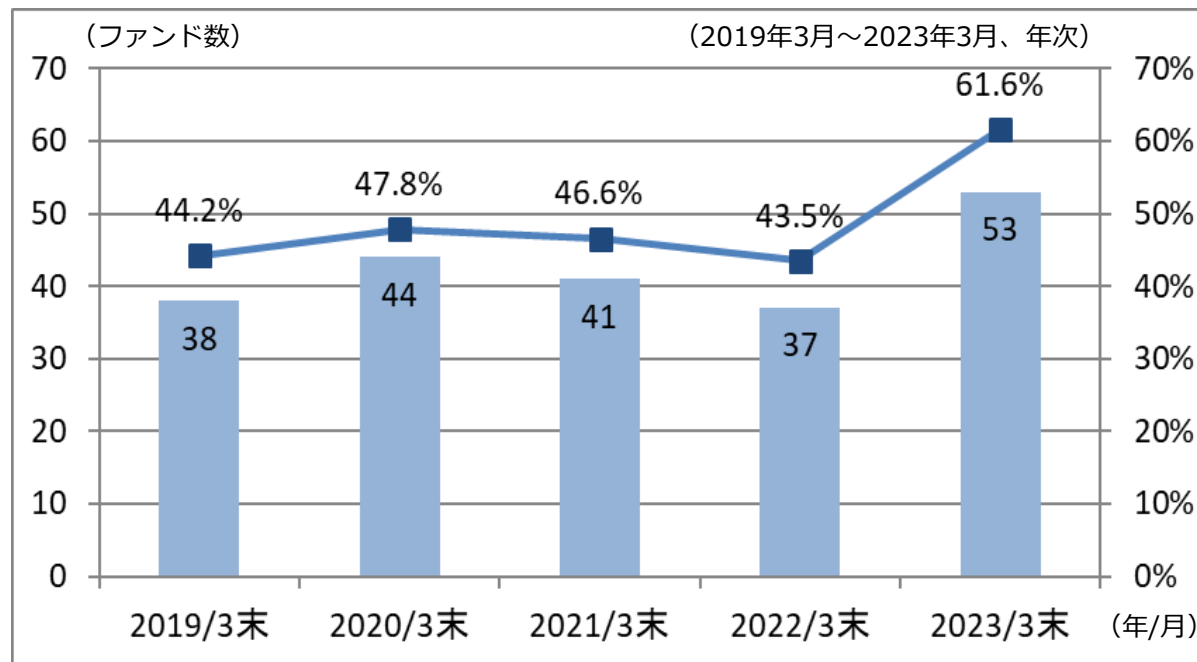
③ 評価機関より4つ星以上を獲得したファンド数及び割合

お客様の資産形成に貢献するため、中長期的に優れたパフォーマンスを上げることが、当社の使命と考えております。

評価機関（4社のうちいずれか）より、4つ星以上（短期評価除く）を獲得したファンド数及び割合を公表いたします。

2023年3月末では、86本中53本（61.6%）が該当しました。

評価機関より4つ星以上（短期評価除く）を獲得したファンドの割合



※指標の変更 本年度より全ファンドを対象として、評価機関より4つ星以上を獲得したファンド数及び割合に変更いたしました。

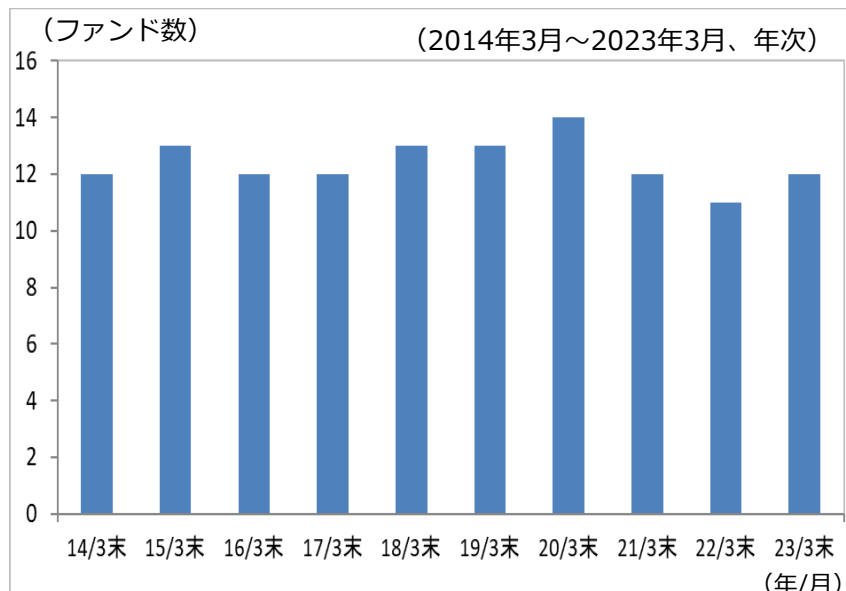
④地域応援ファンド・社会貢献ファンドの本数

当社では、信託報酬の中から、地域の「未来づくり」等のために寄附を行う「地域応援ファンド」や「社会貢献ファンド」に力を入れてきました。

運用にあたっては、前者では主として地域にゆかりのある企業の株式への投資、後者では社会的責任を果たすことにより持続的に成長する可能性が高いと考えられる企業への投資を通じて、安定した収益の確保と信託財産の成長を目指しております。

この「地域応援ファンド」・「社会貢献ファンド」の本数及び概要を公表いたします。

地域応援ファンド・社会貢献ファンドの本数



<ご参考>地域応援ファンド・社会貢献ファンドの概要

※2023年3月末時点

ファンド名	愛称	設定日	運用期間 (年)
日本ESGオープン	絆 (きずな)	2005/8/12	17.6
三重県応援ファンド		2005/9/22	17.5
福井県応援ファンド		2005/12/27	17.3
香川県応援ファンド		2006/5/19	16.9
三重県応援・債券ファンド (毎月決算型)		2010/1/28	13.2
三重県応援・債券ファンド (1年決算型)		2014/1/21	9.2
為替ヘッジ付ソブリン/農業関連オープン	うるおいの大地	2015/2/23	8.1
くまもと未来応援ファンド	復興投信	2018/1/31	5.2
リスク抑制型・4資産バランスファンド	にいがた創業応援団	2019/10/31	3.4
インフラ関連グローバル株式ファンド	にいがたインフラサポート	2021/12/20	1.3
ESG海洋関連株式ファンド	海	2022/4/27	0.9
北陸みらい応援ファンド	北陸のかがやき	2023/1/30	0.2